



朝日放送グループホールディングス株式会社

# CSR活動報告 2017





# CSR方針

朝日放送グループは、高い公共性をもち、地域に根ざす企業グループとしての社会的責任を果たすため、右記の方針のもと、社会貢献活動を行います。



市民生活の保全と  
発展に寄与する  
放送番組と  
事業を提供します。



地域に根ざした  
活動を通じ、  
地域社会の活性化に  
貢献します。



地球環境や自然に  
配慮し、啓発活動  
にも積極的に  
取り組みます。



未来を託す  
子どもたちへの  
支援に  
尽力します。



社会に開かれた  
企業グループを目指し、  
放送・事業への理解を  
促進します。

## TOP MESSAGE

総合コンテンツ事業グループとして持続的に成長・発展し  
多様化する社会に安心と信頼、楽しみと安らぎを提供する

朝日放送グループは、2018年4月1日に認定放送持株会社体制に移行いたしました。

中核事業である放送事業を取り巻くメディア環境は、将来像の見通しが困難な激動期の最中にあります。ホールディングス化の目的は、地上波テレビ放送、CS放送、ラジオ放送をはじめとするグループ各社が機動的で柔軟な経営判断を行い、持続的な成長・発展を目指すことです。

「変化に対応しながら進化を続け、強力な創造集団として、社会の発展に寄与する」

朝日放送グループ経営理念を引きつぎ、不安定なメディア環境にあっても、社会の中にある情報を正確かつ適切に収集し、発信し続けることで、メディア

企業としての責任を果たし、皆様の信頼にお応えしてまいります。

今回お届けする「CSR活動報告2017」でご報告する様々な取り組みも、さらに進化させてまいります。

放送事業をはじめとする朝日放送グループの総合力を、これから地域の活性化を担っていく青少年たちへのサポートに活かしてまいります。地球環境・地域社会にかかわる様々な問題を共に考え、豊かで安心して暮らせる地域社会をめざして、メディア企業ならではの活動を進めてまいります。

今後とも一層のご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。



朝日放送グループホールディングス株式会社

おきなか すずむ

代表取締役社長 沖中 進

まいど！  
エビシーが  
案内するシー！

朝日放送グループの  
キャラクター「エビシー」が  
案内するシー！



ABCのキャラクター  
“エビシー”

▷ ABC本社前の堂島川近辺で  
目撃されたUMA(未確認動物)

▷ ABCのテレビ・ラジオが好きで  
本社近辺に出現



# 環境に配慮し、 啓発活動に取り組む

地球環境に配慮した地球に優しい  
企業グループを目指します。  
啓発活動にも  
積極的に取り組みます。



「ガラスの地球を救え」キャンペーン



## 「ガラスの地球を救え」

1989年に他界した天才マンガ家・手塚治虫さんが最後に残したメッセージです。  
「これ以上人間の手によって、大切な空気や緑、そして青い海を汚してはいけません。次世代を担う子どもたちの夢を守らなければいけない」という思いが込められています。

朝日放送は、2000年からこのメッセージを元に「ガラスの地球を救え」キャンペーンをスタートしました。朝日放送グループとして今後も、環境保全の継続的実現を図り、地球にやさしい企業グループを目指します。

「ガラスの地球を救え」  
キャンペーン ①

スペシャル番組  
「ワンダーアース5」  
地球は素敵にカラフルだ!



「ガラスの地球を救え」キャンペーンの一環として、2003年度から年に一回、放送し続けている特別番組は、2017年度の放送で、15回目を迎えました。2013年度からは、奇跡の星・地球のスゴさと素晴らしさを感じ、地球を大切にしたい…という願いを込めて、『自然環境』をテーマに「ワンダーアース」シリーズをお送りしており、シリーズ5回目となる今回は「地球や生き物の色」をテーマに2017年4月29日(土・祝)午後2時から放送しました。

絶景・動物・昆虫・鳥…この地球が生んだものは、すべて「色」に彩られています。

しかし、うっとりするような美しい色にも、華やかな色にも、そして毒々しい色にも、どんな「色」にも驚くべきふか〜いワケが隠されているのです。

なぜ、パンダは白と黒なのか、花の色はなぜ赤や黄色が多いのか、鳥はなぜカラフルなのか、毒をもつカエルはなぜ鮮やかな色なのか…。

圧倒的な生物多様性を誇る色彩の楽園・コスタリカ、四季折々の色彩に溢れる日本の絶景…個性豊かな専門家の先生に導いてもらいながら、自然界の不思議や謎=ワンダーアースを探りました。

地球や自然のことが好きになる、大人子どもすべての人に地球のスゴさと素晴らしさを感じてもらう3時間半の番組を生放送でお届けしました。

ワンダーちゃんは地球を飛びまわっているんだシ。

中米の  
コスタリカだよ!

不思議な色の  
珍しい生き物が  
いっぱいいたよ!

今回はどこまで  
行ったの?





「ガラスの地球を救え」  
キャンペーン ②

「みんなの木」活動



「ガラスの地球を救え」キャンペーンの一環として、2007年にスタートした「みんなの木」活動は、次の世代を担う子どもたちに、自然の大切さ、命の尊さを知ってもらい、未来の環境について考えてもらう機会として誕生しました。2012年までは、小学校や幼稚園での自然環境の特別授業や記念の植樹体験を中心にやってきましたが、2013年春からは自然公園や里山などに場所を移して、植物の観察会や工作イベントなど身近な自然環境に触れる催しを行っています。

2017年度は、「ABCラジオまつり」〈2017年11月19日(日)〉、「ABCラジオスプリングフェスタ」〈2018年3月11日(日)〉に合わせて、1970年に開催された大阪万博終了後に整備された万博記念公園にて、自然観察会を実施しました。各回約50名(合計約200名)の参加者が、森林インストラクターの案内のもと、ABCラジオのパーソナリティと一緒に、緑あふれる公園内を探索しました。「みんなの木」の活動の実施数は、通算53回となりました。



■ 高石送信所太陽光発電

2013年11月にスタートした大阪府高石市の高石ラジオ送信所の太陽光発電事業は、5年目に入りました。

約2万9千平方メートルの敷地に約1万枚の太陽光パネルを設置しており、出力は1990kWで、発電した電気を関西電力に購入してもらっています。

グリーンな電力を創出することを通じて、環境に配慮し、地球にやさしい放送局を目指しています。



参考

2017年  
5月実績

太陽光発電電力  
**354,192kWh**

ABC本社屋の使用電力  
**1,056,369kWh**  
本社屋の電力の約33.5%を高石送信所の太陽光発電でまか  
なった計算になります。

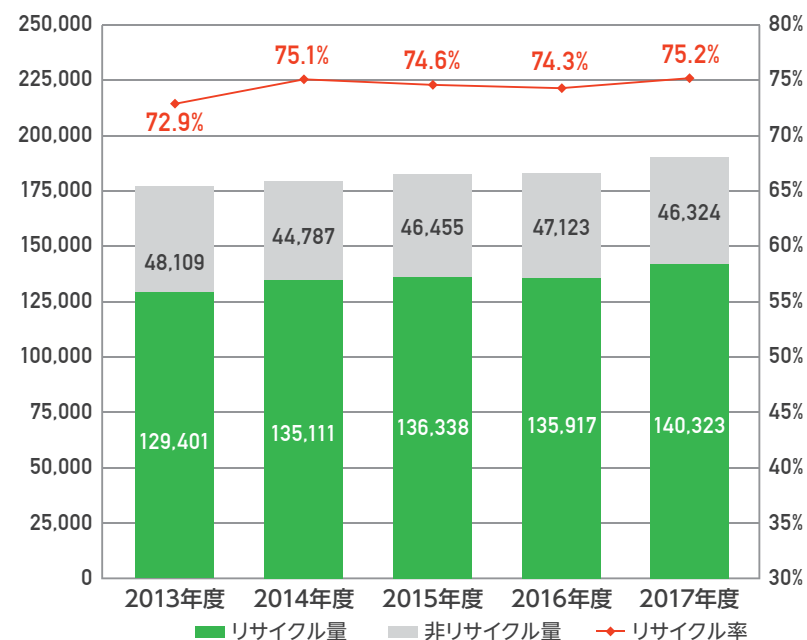
■ リサイクルの促進

社屋全体(ABC本社・アネックスビル)で、廃棄物のリサイクル促進に取り組んでいます。

過去5年間(2013～2017年度)のリサイクル率は70%超えを維持しており「廃棄物の原料推進、適正処理を継続的に実施している」として、2015年度には大阪市環境局長表彰を受けています。

また経費削減の観点からも、印刷物の適切な発注管理とコピー用紙の使用量の抑制にも取り組んでいます。

社屋全体 廃棄量(アネックス含む。外構除く。) 年度別 <通期> (2013年度～2017年度)





# 放送・事業を通じて、 社会に役立つ

ニュースやドキュメンタリーをはじめとする  
各種放送番組や、イベント等を通じて、  
社会が抱える様々な課題についての事象や  
知見をわかりやすく伝えます。

## 国難災害 ニッポン2000年の「宿命」

2017年  
5月4日(木・祝)  
午前9時55分～  
10時53分放送

樹齢の長い木を輪切りにし、その幅や成分を分析する「年代研究」は、歴史の教科書を塗り替えることもある考古学研究の基礎です。そんな研究を深めると、歴史上我が国で起こった政変のいくつかは、災害や気候変動が引き金だった可能性が明らかになってきました。

大きな災害が国民を困窮に陥れ、それによって政治体制が激変したために、国は長い混乱の“トンネル”に入っていく…今、発生が危惧されている「首都直下地震」や「南海トラフ地震」の後、私たちが同じ目に遭わないために、それを回避するヒントを歴史の中に探し出すことはできないか。私たちがあえて目を背けている『未来』を、歴史を通して直視し「将来の減災」につなげるための番組です。

東日本大震災以降制作してきた、「古文書が語る巨大津波」(2011年)や「天下人が恐れた大地震」(2012年)、「二度目の激震」(2016年)と同様、ABCがこれまで培ってきた「文化財取材」と「災害報道」との融合の成果です。



## エビシーが聞くシー

その一

き ど たかゆき

## 木戸 崇之 ディレクターに聞いたシ。

報道・情報番組の番組ディレクターをする傍ら、災害・防災の取材に取り組んでいます。

きっかけは2011年の東日本大震災です。被害の取材だけで終わりにたくない…未曾有の災害の教訓を、次に活かすことが私たち報道機関の使命だと感じました。そしてその後、会社の社外研修制度を利用して「人と防災未来センター」で1年間研修して学び、そこで得た知識と災害取材の経験から、この番組を作りました。

「首都直下地震」や「南海トラフ地震」が、いつ起こってもおかしくないとされる今だからこそ、災害を「国難」にしないために、ひとりひとりが災害に備える意識を持つ一助になれば、と願っています。







## 災害・防災報道

阪神淡路大震災を経験した放送局として、災害発生時の報道を迅速に行い、防災・減災に役立つ情報伝達を適切に実施するとともに、過去の災害などの知見を活用し、啓発活動にも取り組みます。また、地域の安心と安全に係わる情報をお届けするシステムの構築に努めています。

## テレビの郵便番号登録機能とデータ放送を活用した

## 「避難情報のエリア限定強制表示」を導入

テレビを見てくださっている視聴者の命を守るため、2017年の秋から、テレビに登録した郵便番号を使ってその地域に必要な災害情報に絞り込んで、速やかにテレビ画面に表示する運用を始めました。

お住まいの自治体に、避難勧告や避難指示・特別警報・土砂災害警戒情報、近くを流れる国土交通省指定河川に洪水情報（はん濫警戒情報以上）が発表された時には、視聴者の皆様が特別なりモコン操作をしなくても情報が表示されます（一部時間帯を除く）。

総務省が推進する「Lアラート」という情報伝達システムを活用したもので、放送エリアすべての自治体を対象に、全時間帯で本格的運用するのは、国内の放送局で初めてです。

## 字幕・解説放送

テレビを見てくださっている、耳の不自由な方や高齢者の皆様に、テレビ番組をより楽しんでいただけるよう字幕放送・解説放送などの普及に努めています。字幕放送とは、出演者のトークやセリフ、ナレーションを文字や記号にして、画面にわかりやすく表示するものです。現在、午前7時から午後12時までのバラエティやドラマ、アニメ番組には、すべて字幕が付与されています。ニュースやスポーツ中継などといった生放送番組でも、リアルタイムに字幕放送を実施しています。

また、目の不自由な方にもテレビ番組を楽しんでいただけるよう、バラエティやドラマ番組などで解説放送を実施しています。解説放送とは、ナレーターが情景描写や出演者の表情など番組内容をわかりやすく説明して、副音声でお届けするものです。

朝日放送テレビは、今後も字幕放送や解説放送の拡充を通じて、情報アクセシビリティの向上に努めてまいります。



こうした取り組みを通じ、視聴者の皆様、株主の方々、地元関西の方々、従業員などをはじめとするすべてのステークホルダーの皆様に信頼していただける放送局として、企業価値を高めてまいります。



こんなことも  
やってみよう







## ピンクリボン スマイルウオーク神戸

「ピンクリボン」とは、乳がん啓発活動を表す世界共通のシンボルです。

当社は、2004年より、「ピンクリボン スマイルウオーク神戸大会」（主催：日本対がん協会、朝日新聞社、朝日放送、神戸新聞社 ※神戸新聞は2011年から）の開催をお手伝いしています。

2017年度は、10月14日（土）に、兵庫県神戸市のスペースシアターで行われ、10キロ、5キロ、3キロコースに、合わせて約2300名が参加。ステージでは専門医による啓発トークや、マンモグラフィーによる乳がん検診デモンストレーションを行いました。

また、検診車での乳がん検診（要事前申込・抽選制）や、自治体での検診情報の提供、賛同する協賛各社によるブース出展など、様々な催しを開催しました。

イベントを通じて、乳がんのことを理解し、命の大切さに共感し、検診への一歩を踏み出してもらえるよう、これからも応援を続けます。

写真提供：日本対がん協会



## エビシーの防犯・防災活動

当社と大阪府警察が連携して「ひったくり・女性被害防止キャンペーン」を、2018年2月9日（金）に阪神電鉄野田駅前広場で実施し、当社グループのキャラクター「エビシー」がゲストとして登場し、大阪府警察のマスコット「フーくん・ケイちゃん」と共に防犯教室の寸劇を披露するなど、地域の方々と一緒に防犯の知識を深めました。

また、エビシーをデザインした、親しみやすいピンク色の自転車前かご用ひったくり防止カバーを、約250名の来場者の自転車に直接取り付けプレゼントしました。来場者からは「自転車に乗る際、前かごにカバーを付けることで、ひったくり被害に遭わないようにしたい」「可愛いカバーで使いやすい」などの声をいただきました。



さらに、エビシーは3月4日（日）、福島区役所と福島消防署が主催する、地域の方々や子どもたちに楽しみながら防災意識を高めてもらうための「福島区防災フェスタ 知る体験あそぶDAY」にも参加しました。当社の津田理帆アナウンサーもゲスト参加し、参加者と一緒に、起震車に乗って震度5の状況を体験したり、水消火器の使用方法を学んだり、消防隊員による救助訓練や放水訓練の見学したほか、消防服の早着替え競争にも飛び入り参加しました。

防犯・防災意識を高く持ち続けるためにも、これからも近隣の皆様との繋がりを深めていきたいと考えています。

ABC



## 中之島まるごと フェスティバル （東日本大震災後復興支援イベント）

本社のある大阪・中之島エリアで、2017年10月28日（土）～11月5日（日）に開催された「中之島まるごとフェスティバル（主催：中之島ウエストエリア・プロモーション連絡会）」は、2014年からスタートした東日本大震災の被災地復興支援イベントで、今年で4回目を迎えました。

その一環として、当社は、社屋に隣接するABCリバーデッキで、被災地にピアノを届けるための寄付を募る震災チャリティーライブ“みんなのために”を、11月4日（土）に開催しました。このライブには、趣旨にご賛同いただいた地元関西のミュージシャンなどが出演、当社の上田剛彦・八塚彩美アナウンサーが司会を務めました。また、タレントの桑原征平さんが「自宅の中を断捨離した」とチャリティーオークションを開催。この日に来場した観客の皆様には、募金にご協力いただきました。

「中之島まるごとフェスティバル」全体で、企業団体からの寄付を含め、総額508,937円が集まり、2018年4月開校の宮城県名取市・関上小中学校にピアノが寄贈されました。





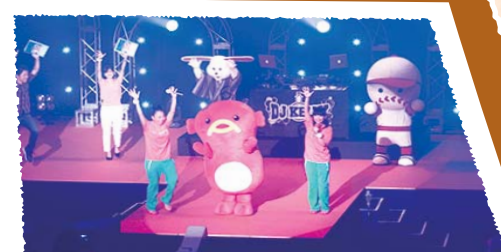
# 積極的に地域に参画・貢献し、 より開かれた放送局を目指す

地域住民や近隣企業、自治体等と協力し、  
イベントなどを通じて、地域の活性化と  
賑わい創出のための取り組みを進めます。

エビシーが  
盛り上げるシー〜!



2017年(1月1日～12月31日)はABC創立66周年の記念イヤーでした。頭に「6チャンネル」をあらわすシックスカールを持つエビシーは、“喜ばせ隊士(たいし)〜”に姿をかえ、番組やイベントなどを通じて皆様に「サプライズ」をお届けしました。



## ABC夏フェス2017 マイドほたるまち!

「ABC夏フェス2017 マイドほたるまち!」は、ABC創立66周年を記念し、7月17日(月・海の日)に開催されました。本社のある大阪市福島区「ほたるまち」を舞台に、テレビ・ラジオの番組が総力を挙げて来場者をおもてなしするというイベントです。

堂島リバーフォーラム内のメインステージでは、特別番組の公開収録や漫才、お笑いタレントによるライブなどを無料で楽しんでもらいました。また、社屋内では当社の社員食堂を初めて一般に公開しました。人気番組のオリジナルフードを提供するイベント限定のスペシャル食堂として好評を博しました。

その他、社屋内のスタジオには、テレビ番組「芸能人格付けチェック」をアレンジした「関西人・格付けチェック館」が登場(1回税込500円)。「見る」「聞く」「食べる」などのチェック項目に挑戦し、関西人度をチェックするもので、カップルやファミリー客などを中心に多くの来場者が体験しました。







## 中之島なつまつり2017

当社は、本社がある大阪・中之島エリアで働く方々と、そこにお住まいの方々と新しいコミュニケーション創造を目的として、2013年から大阪国際会議場(グランキューブ大阪)および中之島バンクスで「中之島なつまつり」を、中之島を拠点とする7つの企業・団体と共同で主催しています。



今回は5年目で、2017年8月28日(月)に開催し、北村真平アナウンサーと八塚彩美アナウンサーが司会を務めました。



会場では、河内家菊水丸さんの盆踊りや地元ミュージシャンの演奏が行われたほか、リーガロイヤルホテルを始め中之島周辺の人気飲食店によるグルメ屋台が並び、約7000名の来場者で賑わいました。

エビシーも浴衣姿で参加し、皆様とふれあいました。



## 中之島ウエスト 冬ものがたり2017



### 中之島ウエスト 冬ものがたり2017

本社近隣(中之島西エリア)の活性化とイメージアップにより、地域価値の向上に資することを目指すイベント「中之島ウエスト 冬ものがたり(主催:中之島ウエストエリア・プロモーション連絡会)」にも参加しています。

このイベントは2012年冬にスタートし、2017年度のメインプログラムは12月13日(水)~25日(月)の13日間、社屋前の福島港(ほたるまち港)を中心に行われました。ほたるまち港一帯の樹木には「ひかりの実」(光る小オブジェに笑顔が描かれ街路樹などに飾りつけられるスマイルアート)がほのかに灯りました。今回は、秋のABCラジオまつりに来場した子どもたち約300名と



アナウンサーが、思い思いの「スマイル」を描いた作品が展示されました。また、社屋南側正面の堂島川では、「中之島ウォーターファンタジア」(大噴水ライトアップ)が行われました。

当社は、堂島川に面した当社リバーデッキで、エビシーを使ったオリジナル企画「エビシー・きらきら・クリスマス」を実施。内容は、社屋の壁に投影した巨大なクリスマスツリーに、子どもたちがスマートフォンを使って飾り付けをするという体験型ゲームで、参加者にはエビシーからクリスマスカードがプレゼントされました。水辺のまち中之島の冬を彩るイベントとして、地域の盛り上げに貢献しました。







## 「ABCラジオまつり」 「ABCラジオスプリングフェスタ」

朝日放送ラジオでは、リスナーの皆様へ感謝の気持ちを込めて、春と秋の年2回、お祭りイベントを万博記念公園で開催しています。生放送や生ライブのほか、物販・飲食ブース、体験コーナーなどが並び、盛りだくさんの内容のお祭りです。



11月19日(日)に開催した「ABCラジオまつり2017」では秋から新たに出演しているパーソナリティのお披露目コーナーや番組対抗のクイズ番組など、およそ5時間に及ぶ生放送を実施、また別のステージでは音楽を中心したライブを催しました。4万8972名の方々にご来場いただきました。

また「ABCラジオスプリングフェスタ2018」を3月11日(日)に開催しました。パーソナリティによる生放送やお笑い芸人のステージのほか、元陸上日本代表の朝原宣治さんや小林祐梨子さんによるランニングレッスン、万博記念公園内を散策する自然観察会など、大人から子どもまで楽しんでいただきました。スプリングフェスタには、4万695名の方々に、ご来場いただきました。



## アナウンサーによる 地域貢献

ABCアナウンサーは、2010年度から、社会福祉施設や関連イベントなどで、絵本の朗読や実況の実演、司会進行のお手伝いなどを行っています。

2017年度は、1月と2月に実施し、2010年度からの累計は39回となりました。今後も、こうした活動を通じ、地域とのコミュニケーションを図ることで、放送への理解を深めていただき、エリアとの親和性を高めていきたいと考えています。

## クリーンアップ活動

2017年4月21日(金)と12月12日(火)に、大阪の福島・中之島エリアの清掃活動を行いました。当社が参加している「中之島ウエスト・エリアプロモーション連絡会」が主催し、近隣企業、住民の方々にもご参加いただきました。



いつも美しく安全で魅力的な街であるために、地域の皆様と共に活動しています。





# 子どもの未来を考え、 次世代育成に取り組む

放送番組やイベントなどを通じて、子どもたちが  
将来に希望を持てる社会をめざし、未来を託す  
子どもたちへの支援に尽力します。

子どもの未来を守るシー



「はじめてのバースデー」

毎週土曜  
午後5時55分～  
6時放送



「はじめてのバースデー」は、2017年秋から放送しているミニ番組です。  
子どもが生まれ、子育てが始まったその日から、親の生活は一変。  
自分の時間は皆無で、小さな命の世話に明け暮れ、くたくたになる  
毎日が始まります。でもそんな毎日は、実はもう二度と繰り返せない  
かけがえのないものです。

そして気がつけば1年が経ち、我が子は1歳の誕生日を迎えます。それは  
お父さんお母さんにとっても、親になって1年経った「誕生日」です。

そんな時期を迎えているお父さんお母さん  
に、子育ての「実感」「喜び」「楽しさ」「わが子へ  
の思い」を語っていただく番組で、番組開始以  
来、大勢の親子に登場していただいています。



武田和歌子アナウンサー  
(ナレーション)

ABCこども未来プロジェクト

since2007

ABC

こども未来プロジェクト

## 「ABCこども未来宣言」

当社は、全社横断的な組織として、「こども未来プロジェクト」を2007年1  
月に立ち上げました。

「いじめ」「虐待」「自殺」「犯罪の若年化」など、子どもを巡る環境は厳しい  
ものがあります。子どもたちがさらされている危機は、私たちの未来が摘み  
取られていることと同じであり、そんな子どもたちが将来に対して、明るい希  
望をもってもらうため、「こども未来プロジェクト」では、番組やイベントを通  
して、視聴者の皆様と共に考えるコンテンツを発信し続けていきます。





## 小中学生！夏休み社屋見学会

社屋を現在の大阪市福島区に移した2008年から毎年、夏休みに、小中学生を対象とした社屋見学会を開催しています。

いつも見ているテレビや、聴いているラジオの番組が、どのように作られて放送されているのかを見学し、放送局をより身近に感じていただければと願っています。

2017年度は、夏休みに入って間もない7月26日(火)と27日(水)に開催しました。朝の情報生番組「おはようコールABC」や「おはよう朝日です」を始め、夕方のニュース番組「キャスト」、ホームページ等で参加者を募集し、多数の応募の中から当選した138名が見学会に参加しました。案内は、各部局の新入社員から経験豊富な大ベテランまでが担当しました。



社屋見学会では、まずラジオのスタジオで、生放送中の番組を見学した後、現役ラジオディレクターの指導で番組制作を体験。テレビのスタジオでは、「おはよう朝日です」(月曜～金曜 朝6時45分～8時 放送)で実際に使用されているセットで、テレビ制作技術部員とアナウンサー(若本・大野・川添・柴田・福井・八塚アナウンサーが交代で登場 ※五十音順)のサポートのもと、参加した子どもたちが、出演者・カメラマンに分かれて、番組づくりに挑戦しました。続いて「キャスト」(月曜～金曜 夕方4時58分～7時 放送)のスタジオがあるニュース報道フロアを見学し、最後に展望テラスでABCキャラクター「エビシー」と記念撮影をして約1時間45分の見学会は終了です。

参加した子どもたちの保護者からは「普段入ることのできない放送局のスタジオで、アナウンサーやカメラマンの方から、直接番組作りを教わったのは貴重な体験でした。」といった声をお寄せいただきました。

## エビシーが聞くシ

かわぞえ かほ

## 川添 佳穂アナウンサーに聞いたシ。

私が出演している「おはよう朝日です」のスタジオに子どもたちを迎え、一緒に約2分の番組を作りました。カメラマン役とエレクトーンのお姉さん役が人気で、私は、CG合成用のセット(フロマキー)を使った「生中継」のコーナーで中継先のリポーター役を務めました。青いフロマキーの前に立った青い服の子どもが透明人間のようにモニター映し出されるハプニングに、驚きと笑いの声ができ、私にとっても、楽しい時間になりました。2018年の夏には、どんな子どもたちが来てくれるのか、今から楽しみです。

## ABC出前・社内授業 エビシー教室

当社は、2011年から、エリア内(近畿2府4県)の小学校を、現場の第一線で働くディレクター、アナウンサー、記者、カメラマン等が訪問して「ABC出前授業」を行ってきましたが、2017年度からは、新たに「ABC社内授業」も始めました。対象は原則として、メディアの授業が始まる小学校高学年ですが、中学、高校、大学、専門学校、市民講座などからの応募も可能です。



「ABC出前授業」では、番組作りや取材現場の裏側をお話したり、持参した本物の放送用カメラやマイク等に、実際に触れてもらってカメラマンやスイッチャーの体験をしたり、ニュースキャスターやフロアディレクターを体験していただくことを通じて、より身近に放送局を体感できる機会となっています。

「ABC社内授業」では、普段は入れない放送局の中で、スタジオなどを実際に見学しながら、放送の裏側を学んでいただきます。

参加した子どもたちからは「ゾウが乗れるほど大きなエレベーターがあることにすごくびっくりした。実際に乗ってみると、普通のエレベーターより振動が少なかったです。」「天気予報で毎朝見ているスカイテラスに行くことができた。そこから見た大阪の景色がきれいでした。」などの声が寄せられました。

エビシー教室は、2017年度は21回、過去7年間で通算144回実施しました。

